

栃木高校 一人一研究 『発表』に関するルーブリック

1 明確な内容 (speech)

ここでいう、明確にすべき内容とは、introductionとして「これまでの先行研究でわかっている事実」「先行研究に対する自分の研究の位置付け」「研究の社会的意義」を、conclusionとして「自分の研究で明らかになったこと」「今後の課題」を指す。これらがわかりやすく伝わるように構成されている必要がある。			
	introductionについて	conclusionについて	volume(time)について
十分 評価4	「これまでの先行研究でわかっている事実」「先行研究に対する自分の研究の位置付け」「研究の社会的意義」が明確に分かるように構成されている。また、プレゼンテーションの内容が事実に基づいていて、正確であるとともに、必要な情報がすべて盛り込まれている。また、聴衆にわかりやすい構成になっている。	情報は論理的に分かりやすく配列されている。次に何が述べられかということが聞いていて予想しやすい展開である。「自分の研究で明らかになったこと」「今後の課題」が明確に示されている。また、研究の目的(仮説)に示した内容と結論が的確に整合している。	決められた時間内(5分)で説明し、聞き手が十分理解できるスピードである。
おおむね十分 評価3	プレゼンテーションは概ね必要な情報が入っている。しかし、「これまでの先行研究でわかっている事実」「先行研究に対する自分の研究の位置付け」「研究の社会的意義」のいずれかが少し分かりにくい、あるいは曖昧さがあり、明確に伝わらない。	情報は論理的に分かりやすく配列されているが、「自分の研究で明らかになったこと」「今後の課題」がやや不明瞭である。また、研究の目的(仮説)に示した内容と結論にやや整合していない箇所がある。	決められた時間内で説明できているが、早口であったり、情報が多すぎたりして聞き手が十分理解できていない。
やや不十分 評価2	「これまでの先行研究でわかっている事実」「先行研究に対する自分の研究の位置付け」「研究の社会的意義」のいずれかが示されていない。自分の行った研究については正確に表現できているが、必要な情報が抜けている箇所もあり、全体的にやや分かりにくい。	研究によって得られた事実は述べられているが、「自分の研究で明らかになったこと」が明確に伝わらない。あるいは「今後の課題」に触れていない。	冗長であったり、逆に情報不足である。聞き手に与える情報を取捨選択し増減する必要がある。
不十分 評価1	「これまでの先行研究でわかっている事実」と自分が行った研究の成果の区別ができていない。「先行研究に対する自分の研究の位置付け」「研究の社会的意義」も曖昧である。	情報の並べ方が不適切で、聞いていても何が言いたいのか、また、何が明らかになったのか分からない。	大幅な時間の超過、あるいは不足である。プレゼンテーションを抜本的に考え直す必要がある。

2 適切な資料(visual)

内容の説明, その補強に必要なかつ適切な資料を準備し, 効果的に用いる必要がある。図やグラフにはタイトルや単位などの必要な情報をすべて記載せねばならない。文字サイズはできるだけ大きく, 背景色を含めて文字色は見やすくする。1枚のスライドに多くの情報を詰め込むことも避けなければならない。

	内容理解を促す図, グラフ, 映像について	文字サイズ, 色について	スライドの枚数, 1枚当たりの情報量について
十分 評価4	グラフ, 写真, 絵, 図は, 大きさや位置, 配色が適切で聞き手の関心を惹きつけたり, プレゼンテーションのテーマや内容を引き立たせるものとなっている。また, 単位や縦軸, 横軸の説明, 目盛の数値など必要な情が明記されている。	文字の色, フォント, サイズは読みやすく, 内容がわかりやすいように適切に使い分けられている。文字の大きさは十分に大きく, 文字色, 背景色も読み取りやすいように工夫されている。	プレゼン内容を説明, 補強する適切な枚数で, 過不足がない。聞き手が1枚のスライドを理解するのに必要な時間が確保されている。
おおむね十分 評価3	グラフ, 写真, 絵, 図は, 聞き手の関心を惹きつけたり, プレゼンテーションのテーマや内容を引き立たせるものとなっているが, 大きさや配色が不適切であるため見にくいものもある。また, グラフでは単位や縦軸, 横軸の説明, 目盛の数値などの抜けが見られる。	文字は十分に大きく, 読み取りやすいが, ところどころ小さかったり, 字色, 背景色が工夫されていないため, 読み取りにくいところがある。	プレゼン内容を説明, 補強する適切なスライドが用意されている。しかし, 一部過不足がみられる。スライドがすぐに切り替わって聞き手の理解が十分でない。
やや不十分 評価2	グラフ, 写真, 絵, 図は, 聞き手の関心を引くように工夫がなされている。しかし, テーマや内容とは関連性が低いものも含まれている。また, グラフでは単位や縦軸, 横軸の説明, 目盛の数値などの抜けが多い。	文章は内容がわかりやすいように記述されているが, 字色, 背景色が読み取りやすいように工夫されておらず, 見えにくいところが随所にある。	プレゼン内容を説明, 補強する適切なスライドが用意されている。しかし, 過不足が多々みられる。スライドの取捨選択を要する。
不十分 評価1	内容との関連性が低いものが多い。また, グラフでは単位や縦軸, 横軸の説明, 目盛の数値などの情報が盛り込まれていない。	文字は読み取りにくく, 内容を理解することが困難である。	プレゼン内容を説明, 補強する適切なスライドになっていない。必要なスライドが明らかに不足している。

3 話す技術(delivery)

発表では、「発表に臨む姿勢(posture)」「適切な発声(voice)」「聴衆との対話(eye contact)」を意識しながらわかりやすく説明する必要がある。			
	postureについて	voiceについて	eye contactについて
十分 評価4	ほとんどメモを見ることなく、発表、質疑応答ともに自信を持ってできている。聞き手を魅了するものとなっている。質疑応答では質問者の意図がよく理解できており、想定外の質問にも的確に答えられている。	音量、発音ともに適切で明瞭である。読み間違いがなく、聞きやすい。スピードも適切である。	聞き手と適切に視線を合わせ、聞き手の反応を確認しながら間合いを取ったりスピードを調節したりしながら的確に伝えることができている。
おおむね十分 評価3	発表は自信を持ってできている。質疑応答においても概ね的確に答えられているが想定外の質問には窮する場面もある。	音量、発音とも概ね適切で明瞭である。スピードも適切である。	視線を合わせ、聞き手の反応を確認しようと努力している。しかし、それをうまくプレゼンテーションに反映できていない。
やや不十分 評価2	メモを見ながら発表していて、質疑応答時には質問者の意図が理解できなかったり、答えに窮する場面が多い。	音量、発音ともに概ね適切であるが、音量に変化があったりスピードが速すぎて聞き取れないこともある。	アイコンタクトを取るのは時折である。
不十分 評価1	ほとんどがメモを見ながらの発表であり、自信、意欲ともにない。	つぶやくように話し、読間違いが多く、聞き取れない内容である。	視線を合わせることなく一方的な説明となっている。